

(再開 午後 3時10分)

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

3番 山本隆樹 議員。

(「はい、議長。3番。」の声あり)

(3番 山本隆樹 議員 登壇)

1. 「にぎやかな過疎村」へ

3番 山本隆樹 議員

では、通告に基づき、2点質問いたします。

1点目、賑やかな過疎村へ。

全国、多くの自治体が少子高齢化、人口減少の課題に直面しています。即効薬はなく、地道な積み重ねが求められます。まずは賑やかな過疎村を目指し、すぐには人口増に繋がらなくても関係人口を作り上げ、人材を作り上げていくことだと思えます。人口は減るけど、木島平村とのパイプを持つ人材を増やして賑やかにしていくということです。

観光施設の民間譲渡先のSBCメディカルグループから「北信州木島平スキー場」の名称を「スノーリゾート ロマンズの神様」に変える計画があり、シンガーソングライターの広瀬香美さんも音楽の力で地域社会を盛り上げるとコメントしています。

健康の村、美容の村、音楽の村、何か賑やかな過疎村が予感します。村としても賑やかな過疎村への挑戦っていうか、政策はどう考えているのかお聞きしたい。

議長（萩原由一）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

それでは、山本議員の「賑やかな過疎村へ」ということであります。

観光施設の民営化によりまして、それを活性化に結びつけていくというご意見、ご提案ということであると思えます。

おっしゃるとおり、村に訪れてくれる人が増えるということは、当然、賑やかになってくることでもありますので、大いに期待をしたいと思っています。また、それが波及しまして、新たな事業の創出や雇用が生まれていくことが地域活性化につながるものと考えております。

先日の、SBCメディカルグループの運営方針説明会でもありましたように、美容と健康とウインタースポーツの市場を開拓し、地方都市のスキー場再生における「木島平モデル」を示したいというような話もありました。村としても、企業の力、いろんな方々のお力をお借りしながら、盛り上げていきたいと考えております。

具体的な施策とすれば、関係人口の創出に向けた移住定住対策や少子化対策、観光を中心とした交流人口の創出の充実を図ってまいりたいと考えております。

議長（萩原由一）

山本隆樹 議員。

再質問

3番 山本隆樹 議員

自分としては、今まで村で取り組んできた交流事業をマンネリ化せず、磨き上げていくことだと思

います。

ふるさと応援団木島平会の皆さんとの交流、姉妹都市調布市民とのグリーンツーリズムを含めた更なる交流、観光振興局が今取り組んでおります地域おこし協力隊と一緒に進めている、今一生懸命進めているSNSでの村の情報発信、E-BIKEなどのアクティビティは野外活動、体験ですね。そして人を呼んでくる、そして新たな企画を考え、道の駅の活性化に取り組んでいくことが一つの賑やかな村になる策だと思います。

村でスポーツハイムアルプが主催している「奥信濃100トレイルランニングレース」が今年も開催されるんですが、もう1,000人ほど集まっています。そういう参加、賑わせてくれるその主催者、そういう人への支援・協力がこれからも求められていくと思います。

今までやってきた交流事業への磨き、そして賑わせてくれる主催者への支援、これを村はどう考えているのでしょうか。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、山本議員の再質問にお答えをいたします。

村の企業がイベントを企画をして、大変多くの参加をいただいているトレランの大会でございます。

「どう考えているか」という話でございますけれども、村としては大変喜ばしいことだと思っております。やはりそういった民間の方、また、地元の方のお力で村に多くの方々をお呼びいただいて、そういったイベントを盛り上げていただけるというのは、村としても支援というか後ろ盾をしっかりと作って継続していけるようにしていきたいというふうに考えております。

現在、村ではそういったイベント等を開催する方々に対して補助金も用意をしておりますので、また新たに、こういったイベントをしてみたいとかございましたら、ご相談いただければと思っております。

よろしくお願ひいたします。

議長（萩原由一）

山本隆樹 議員。

再々質問

3番 山本隆樹 議員

今言っているように、今やっていることに磨きをかけるっていうことですよ。ということは、あのトイレの神様も連れてくればいいんじゃないかっていうぐらい磨きをかければ、どんどん自分が美人になったっていうぐらいトイレの神様も連れてきて、それと、野球だったら村神様も連れてきて、大きな何て言うんですか、木島平がロマンスの神様で賑わう木島平にしていくんだというぐらいのノリで、木島平をもっと賑わせていったらどうでしょうか。

村長にお聞きします。

議長（萩原由一）

日基村長。

（村長「日基正博」登壇）

村長（日基正博）

突然の、正直言ってやっぱりそれも含めて関係人口だろうというふうに思います。広瀬香美さんにしても、村神様にしても、いきなり村が呼んですぐに来てくれるということは当然ないわけでありませう。そのためにはやはり、いろんな関係人口等、交流を広めていく中でそういう関係ができれば、そういうことも可能になってくるんだらうというふうに思います。

また、皆さん方のそういう声を色々繋いで、また声をね、やっぱり皆さん方が繋いでいくことが大事だというふうには思いますので、よろしく願いいたします。

議長（萩原由一）

山本隆樹 議員。

2. ジャンプ台施設の今後は

3番 山本隆樹 議員

では、2点目の質問です。

ジャンプ台施設の今後ということなんですが、木島平村のジャンプ台は平成9年、1992年6月に設置され、26年経過しています。全日本スキー連盟公認、スモールヒル1基K点35m、ミディアムヒル1基K点65m、クラブハウス、飛形審判棟、駐車場が作られました。総事業費として7億7,000万がかけられています。

今年の1月には、SUN公認25回木島平ジュニアジャンプ大会で、45回となる長野県スキー大会週間が開催され、使用されています。開催費用、人件費等は県の費用として賄われるんですが、ジャンプ台の維持管理費、施設は、その所有の自治体が持つという形で聞いています。

今後、その老朽対策もあり、維持管理、大会の誘致等村としてどう対応されていくのか、お聞きします。

議長（萩原由一）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

「ジャンプ台施設の今後」ということでご質問ありますが、このご質問については担当課長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

高木生涯学習課長。

（生涯学習課長「高木良男」登壇）

生涯学習課長（高木良男）

それでは「ジャンプ台について」のご質問でありました。

私の方から、若干の経過と、それと今ジャンプ台やクロスカントリー競技場、それぞれスキー施設がございますが、そういったものが取り巻かれている環境、それとそれらの将来性、この三つの論点でお答えをさせていただきたいと思っております。

冒頭、今、ご質問の中にスキー大会の経費でありますけれども、村が独自に開催をしております本年第25回木島平少年ジャンプ大会、それと1月に行われました長野県スキー大会週間、長野県スキー大会週間の開催経費は長野県スキー連盟で持っていていただくということでありますので、村独自の第25回木島平少年ジャンプ大会についての経費は、村の持ち出しでございますので、よろしく願いいたします。

それではお答えいたします。

ジャンプ競技場は今から 26 年前の 1997 年に、若者定住を目的としました総額 50 億を超える大型事業「ふれあいの園事業」の一環として、議員ご指摘のとおり、用地費、クラブハウス含め 7 億 7,000 万円で整備をしたものであります。

オールシーズン飛ぶことができ、近くにクロスカントリー競技場も整備されていることで人気を博し、ジュニアの育成拠点に主眼を置き、ミディアムヒル K 点 65m、スモールヒル K 点 35m の 2 台を設置しております。

建設から 10 年を経過した 2007 年の時点で、選手が着地するランディング箇所的人工芝が劣化をいたしまして着地不可能となり、当時の改修費の見積もりは 3,400 万円で行っていました。

これについては、小・中学生で 5 人のジャンパーしかいないという状況の中で、多額の税金を使うのはいかかなものかといった意見もあり、改修を断念した経過がございます。

今現在は、冬季シーズンのみでの運営であります。中学生の強化育成に適する、今現在適すると言われる K 点 65m、このジャンプ台については県内では木島平村にしかございません。そういったことで、近隣市町村や白馬方面からもジャンパーが多く集まっているという状況でございます。

しかしながら、ジャンプ競技人口が激減している昨今、施設維持管理の課題は近隣の野沢温泉村、飯山市も同様でございます。平成 19 年から平成 26 年までの 7 年間、飯山市・野沢温泉村・木島平村ジャンプ台共同使用・管理についての検討会が継続的に行われました。しかしながら、最終的に互いに協定を締結するまでには至らなかった経過がございます。

現在のジャンプ競技場は、年間の管理費約 300 万円です。この内訳は、冬季の整備人件費、圧雪車、スノーモービルの点検整備費等々でございます。しかしながら、圧雪車の使用がすでに限界に達していることや、大会における計時計算システムの老朽化、スタート待機エリアなどの構造物、具体的には階段でありますけれども、こういったものが経年劣化により使用に耐えられない状況となっており、ほかの主要箇所も老朽化が激しく進んでいる状況でございます。

本年 1 月の長野県スキー大会週間前にも急遽、仮設階段設置の補正予算を組ませていただき、大会に対応したところでありますし、今後の継続には圧雪車の更新、不具合箇所の修繕等、大規模な経費がかかることが想定されています。

このエリアには、飯山市、野沢温泉村にもジャンプ台、クロスカントリーコースがあります。クロスカントリースキー人口も減ってきている状況の中で、この狭い地域にこれだけの施設の数がはたして必要なのか、むしろ白馬地区を含めて全県的に小学生はこの台で、中学生はこの台で、高校生以上はこちらの台でといった広域的にまとめていく、そして管理費についても、例えば白馬ジャンプ競技場のノーマルヒルとラージヒル 2 台の台がございましてけれども、ノーマルヒルは村営、ラージヒルとリフトについては県営の施設となっております。

こういったことから、国の拠点施設としての指定を受けるなど、財源確保の研究も併せて今後検討していく時期にきております。

ジャンプ台、クロスカントリーコースといった施設は、元来、費用対効果の物差しを当てはめるものではなく、教育的施設と捉えています。今後の継続、廃止の方向性については、スキー競技施設を所有する自治体、全県的な課題として県の教育委員会、長野県スキー連盟、各地域スキークラブが一同に会し検討していく準備を、今現在、調整をいただいているところであります。

議長（萩原由一）

山本隆樹 議員。

再質問

3 番 山本隆樹 議員

施設の維持管理の課題というのは、飯山市も野沢温泉も抱えていて、ジャンプ台の共同使用、管

理については広域的にまとめていって、施設が、もし県営で賄うとか国の強化拠点施設として指定を受ければ、財源確保が念頭に入れていけるので、そういう形で検討していくと。あと、ジャンプ台、クロスカントリースキーコースは費用対効果の物差しを当てはめる施設ではなく、その教育的な施設でもあるというそういう観点からも、その県、施設の持っている自治体と更なる連携を進めていくというふうに理解しました。

それで、結果的には、ちょっと一部でジャンプを私も見に行ったことがあるんですけど、廃止の方向で進んでいるんじゃないかっていうようなことをちょっと懸念されてたこともあったんですが、そういうわけで進んでいるってわけではないと認識してよろしいですか。

議長（萩原由一）

高木生涯学習課長。

（生涯学習課長「高木良男」登壇）

生涯学習課長（高木良男）

再質問にお答えさせていただきます。

端的に、「廃止ではないのか」というご質問でありますけれども、先ほどご説明をしましてとおり建設から26年が経過し、すでにオリンピックのメダリストも輩出をしている施設でございます。簡単に廃止することで、それに携わる指導者、それや施設維持に関わる皆さんの熱意が失われていってしまうこと、このことこそが地域にとってマイナスになるのではないかというふうに考えております。

雪国に暮らす私達、とりわけ子供たちがスキーに親しむことで、その暮らす土地に誇りを持ち、将来的に自信を持って生きていくための教育施設という捉え方を、改めて私達はしていかなければいけないのではないかと考えております。

諸般の課題を整理しながら、ジャンプ競技人口の拡大はもちろんありますけれども、大会の運営継続、現状の大会開催の維持に向けて、県や同様の施設所有市町村との連携を更に深めて善処してまいりたいと思っておりますので、今般の状況をご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

議長（萩原由一）

以上で、山本隆樹 議員の質問を終わります。

（終了 午後 3時28分）

議長（萩原由一）

ここで暫時休憩といたします。

再開は、午後3時35分をお願いします。

（休憩 午後 3時28分）